

大谷大学短期大学部 自己点検・評価報告書
2019年度

幼児教育保育科

<自己評定> A

<委員会評定> S

1. 【2019年度の目標等】

[目標] 進路・就職支援の充実

学生が自分にあった進路・就職先を意識し選択できる環境を整え、支援を充実させる。
就職を希望する学生に対して就職率 100%を目指した支援を行う。(※就職率：【就職者/希望者】)

[達成基準]

行動計画に挙げた内容を実行した結果、就職率 100%に達した場合、目標達成できたものとする。

[行動計画]

1. 学科とキャリアセンターとの連携を密にして学生の進路・就職に向けた支援を行う。
 - ①2年間を見通したキャリア支援計画として、「進路・就職ガイダンス」(キャリアセンター主催)について、学科の指導や行事との関連において、学生の学びの実情に合ったものとなるよう、日程や内容を検討するとともに学生への周知の徹底を図る。
 - ②ガイダンスに出席していても話が浸透していない学生も(少数ではあるが)いるため、ゼミの時間等を利用し、学生と教員、キャリア担当者が、少人数で、やり取りできるような時間を設定し、学生がキャリアセンターを利用しやすくなるようにする。こうした取り組みによって、学生が、進路・就職に向けた活動全体の流れを理解し、具体的な行動計画を立てることができるよう、主体的な学び・行動に結びつく支援の方向を目指す。
 - ③キャリアセンターへの相談、指導教員との面談を通して、学生が自分にあった進路・就職先を選択できるよう、キャリアセンターと学科間で情報共有しながらすすめていく。
2. 公務員を志望する学生については早期からの対策に取り組み、意識付けを含め支援していく。
 - ①キャリア支援年間計画の中で模擬試験の実施時期として適切な時期を検討する。
 - ②学生への周知を徹底し、模擬試験および対策講座への積極的な参加を促す。

2. 【2019年度の達成状況報告】

学生の就職活動に対して、キャリアセンターによる求人情報提供や学科による助言指導を含めて支援を続けた結果、2019年度の就職率(就職者/希望者)は100%を達成することができた。

[行動計画 1-①について]

- ・「進路・就職ガイダンス」の日程や内容については、学科行事や授業内容との関連を考慮し、昨年度内に検討を終え、3月末の新年度オリエンテーション時に周知することで、学生が進路・就職活動に見通しを持って取り組めるようにした。(ガイダンス資料を参照)
- ・「進路・就職ガイダンス」への出席について、掲示や呼びかけにより学生への周知を繰り返し行った結果、安定した出席者数を得ることができた。

*第2学年(70名)

第1回(4/15)	79.7%
第2回(5/8)	81.2%
第3回(5/15)	92.8%
第4回(7/3)	89.9%
第5回(7/10)	89.9%

[行動計画 1-②について]

- ・学生がキャリアセンターを利用しやすい環境をつくる目的で、キャリア担当者と学生が少人数（ゼミ単位）で交流できる場を設定した（ゼミの時間を利用してキャリア担当者に各ゼミを訪問していただいた）。指導教員も一緒に参加し、学生・キャリア担当者・教員間の関係づくりができたようにした。実施日程：4/24・5/8・5/15・5/22・5/29 の5回に分けて9ゼミ分実施

[行動計画 1-③について]

- ・キャリアセンターとのミーティングを以下の通り実施し、情報共有を行った。

日程：5/8・7/3・7/30・10/1・11/4・2/19

内容：(1)進路・就職ガイダンスについて（日程・内容の検討、事後の振り返り）

(2)学生の就職活動状況について（情報共有）

(3)公務員試験対策について（模試日程の検討、面接指導 等）

(4)その他

- ・就職園への採用御礼訪問、就職説明会への参加（幼稚園・保育所）、
- ・京都市私立幼稚園協会の事業との連携「幼稚園教諭の魅力発見」（5/21）の開催

[行動計画 2 について]

- ・公務員試験対策として模擬試験を実施した。一次試験突破を目指して個別に受験準備の進め方などの助言や筆記試験対策を行った。

① 模擬試験の実施時期として6月の教育実習（幼稚園）時期を避け、5/13に実施

② 模擬試験の受験者数 8名

- ・公立正職員合格率（合格者/受験者）62.5%

※ 公務員（正職員）受験者 5名（→1次試験には5名とも合格）

最終試験合格者 2名

3. 【点検・評価】

[行動計画 1-①について]

- ・日程や時限により学生の出席率が大きく変化することから、昨年に引き続き、学科行事や授業との関連を考慮した上で日程を調整し、各回、掲示や呼びかけにより学生への周知を行った結果、出席者数の増加につながった（第4・5回については実習オリエンテーション等による欠席あり）。

欠席者については後日個別に指導した。

- ・就職活動直前指導（第5回）を実施し、これまでのガイダンス内容の総復習を行うことで、学生が就職活動全体の流れを理解し、具体的な行動計画を立てることができた。それにより、キャリアセンターへ積極的に来課する学生が増え、新しい情報の提供などの個別対応を速やかに行うことができた。

[行動計画 1-②について]

- ・キャリア担当者と学生が少人数（ゼミ単位）で交流できる場を早い時期（4月～5月）に設定したことで、学生がキャリアセンターを身近に感じて利用しやすい環境をつくることができた。指導教員も一緒に参加することで、学生・キャリア担当者・教員間の関係づくりとしても効果があった。キャリア担当者にとっても、ガイダンスなど大人数の場では出にくい質問への応答を通して、学生の理解の状況を把握できる機会となった。また、学生の顔と名前を早い段階で覚えることが出来、早期からの相談が増え、その後の面談にも良い効果があったという。

- ・学生が進路決定する際、これまでの継続的な取り組みの中で、ほとんどの者は主体的に行動計画を

立てることができるようになっている。個別対応の必要な学生については、主体的な学びや行動に結びつく支援の方向を目指した指導を行った。

[行動計画 1-③について]

- ・学生指導に関して、キャリアセンターと学科の指導の間で行き違いが無いように連携をとり、ミーティングの際だけでなくこまめに確認しあうことで、学生指導内容の共有、その後の対応の確認を早い段階で行うことができた。

[行動計画 2 について]

- ・公務員試験の最終面接まで助言・指導を行った結果、最終試験に合格した者は 2 名であった。また、最終試験には不合格であったが 1 次試験には受験者全員合格できた。不合格者については、私立の園を受験し合格した者、また、来年度以降も公立正職員を目指す者等、その後も高い意識を持ち続け、各々の目標に向かって取り組んでおり、それらに対する助言を続けている。

4. 【根拠資料】 資料名を明記し、現物を添付すること

会議資料・ガイダンス資料

<相互評価担当者使用欄>

<所見>

【2019 年度の目標】に対して適切な行動計画が立てられており、かつ、【2019 年度の達成状況】から、立てられていた達成基準を果たすことができたことが確認できた。自己評価は A であるが、就職率 100%自体が十分に高い数字であることから、十分な効果があったといえる。そのため、評価を S とした。

<自己評定> A	<委員会評定> S
1. 【2019年度の目標等】	
[目標] 子育て支援の充実	
これまでの実績をさらに継続・発展させていく	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の子育て支援活動へ継続的に取り組み、さらに充実し、京都市・北区と連携し拠点化を図る 2. 地域貢献と同時に、研究及び学びの場としての役割を明確にする 	
[達成基準]	
<ol style="list-style-type: none"> 1. ①「はぐくみ広場」の継続実施 <ul style="list-style-type: none"> ②紫明学区での子育て支援活動を継続・実施（年3回） ③北区内での様々な子育て支援活動を継続・発展（赤ちゃんのいないいないばあ教室年12回・他） 2. 大谷幼稚園との連携事業の継続・検討 	
[行動計画]	
<ol style="list-style-type: none"> 1. ①「はぐくみ広場」を継続する（2019年度も11月実施予定） <ul style="list-style-type: none"> ②北区における子育て支援活動拡充のため、拠点化を推進する 2. ①子育て支援及び教育・研究の場としての施設・設備について、具体化へ向けた整備を実施する <ul style="list-style-type: none"> ②大谷幼稚園での特別課外活動連続講座を継続する。 実習園でも実施できるか働きかけてみる 	
2. 【2019年度の達成状況報告】	
・各行動計画に対する実施状況は以下の通り。	
【行動計画1-①について】	
・「ニコニコ北っ子 つながるフェスタ 2019・はぐくみ広場」を11月29日（金）10：00～11：30、博覧館5階にて実施した。	
参加者は103組（うち妊婦3組）。（内訳は、子ども；109人 保護者；110人）	
スタッフ：児童館・保育所（園）・幼稚園・北区主任児童委員・民生児童委員・北区社会福祉協議会・管理栄養士・健康長寿・北区子どもはぐくみ室・大谷大学短期大学部幼児教育保育科学生・教員	
【行動計画1-②について】	
北区内における子育て支援活動として	
*「あかちゃんにこちゃんサロン」第17回～第19回（紫明学区子育て支援事業）を実施した。	
・第17回は、8月7日（水）10：30～11：30 紫明幼稚園にて、プール遊び、水遊び、あかちゃんの身長体重測定、絵本読み聞かせ、わらべ歌、手遊び、ふれあい遊び等 16組の参加（内訳は、子ども；17人 保護者；19人 兄弟、父母含む）	
・第18回は、12月4日（水）10：30～11：30 大谷大学4号館多目的室にて、おもちゃ作り、絵本読み聞かせ、わらべ歌、手遊び、ふれあい遊び等 14組の参加（子ども；16人 保護者；16人 兄弟、父母含む）	
・第19回は、3月4日（水）10：30～11：30 大谷大学4号館多目的室にて、おもちゃで遊ぶ、絵本読み聞かせ、わらべ歌、手遊び、ふれあい遊び等の内容で実施予定であったが、新型コロナウイルスのことやインフルエンザ流行の時期であるので、協議の上実施を見合わせた。	

*近隣保育園との連携強化として、上総幼稚園とのぞみ保育園との「覚書」を締結し実施することができた。

・実施日は次の通りである。

上総幼稚園 ; 10月30日(水) 10:00~10:20・0歳児、1歳児 25人保育士 4人

1月29日(水) 10:00~10:30・0歳児、1歳児 25人保育士 4人

のぞみ保育園 ; 6月26日(水) 12:10~12:40・0歳児 10人保育士 4人

9月11日(水) 9:50~10:40・1歳児 18人保育士 5人

10月2日(水) 9:50~10:40・1歳児 18人保育士 5人

10月3日(木) 12:10~12:40・0歳児 12人保育士 4人

11月22日(金) 9:50~10:40・1歳児 18人保育士 5人

【行動計画2-①について】

*京都市はぐくみ課主管の子育て支援事業である『地域子育て支援事業 子育て教室 赤ちゃんの「いないいないばあ」教室(0歳児教室)』2クール(6回/1クール)12回を実施した。

・1クルールの内容は、①自己紹介・赤ちゃんのおもちゃ作り ②離乳食についての話 ③離乳食の味見会(楽只保育所乳児棟にて) ④0歳児担任との話と0歳児クラス見学(楽只保育所乳児棟にて) ⑤特別講座「あかちゃんのことばの発達と絵本」講師:本学教授 ⑥ほっこり子育て広場(いつくしむ~子どもも私もかけがえのない存在~)

・実施日は次の通りである。

1クール登録;11組;①5月27日 ②6月3日 ③6月10日 ④6月24日 ⑤7月1日

⑥7月8日

2クール登録;13組;①10月7日 ②10月28日 ③11月11日 ④11月25日 ⑤12月2日

⑥12月9日

・施設、設備については、魅力的な子育て支援環境づくりを進めるため、京都市の「学まち連携大学」促進事業を活用し、乳幼児関係の備品(玩具等)などを整備し、安全面への配慮を第一とした環境設定を行い実施した。参加者から、大谷大学の施設を利用することについては、交通が便利であり室内が明るく安全にも配慮された環境であるとの感想をいただいている。

【行動計画2-②について】

*附属幼稚園と大学の連携事業として「年長児の課外活動」を実施してきた。

・今年度は科学あそび教室「リトルキッズ サイエンス」(担当:本学准教授)を、6月~2月の各2回、計16回実施した。

・実習園でも実施できるか働きかけてみるという行動計画については、打診を試みたものの実現はしなかった。

3.【点検・評価】

【行動計画1-①について】

・「はぐくみ広場」は昨年度から第一子に限定せず、兄弟がいても参加可能とした。そして、今年度からは、北区在住の多くの親子が参加できるように、年齢を0歳~3歳児と幅を広げた。そのことによって、昨年49組の参加が、今年度は103組の参加となった。学生は前日の会場設営準備、開催時の案内や親子のサポート支援、後片付けまで一貫した支援活動を行った。この子育て支援事業の経験を通して、保護者に対する保育者の役割、子育て支援の意義と必要性を学んだ。ふりかえりや、年度末のレポートの記述から、学生たちにとって大きな学習効果があることが分かった。

【行動計画1-②について】

- ・「あかちゃんにこちゃんサロン」では、毎回10組以上の親子が集っている。大谷大学は、交通が便利であり室内が明るく安全にも配慮された環境であることから、安心して和やかな雰囲気を楽しんでいただけた。また学生たちは、親子と触れ合うことは勿論、絵本の読み聞かせや手遊びなどを実践することで専門性を具体的なものとするよい機会となった。
- ・近隣の保育園との連携強化では、昨年度からの上総幼稚園に加え、今年度からのぞみ保育園との「覚書」を締結し実施することができた。0歳児、1歳児が2号館2001教室に来て、ままごとや木製ボールプール、乗り物、おもちゃで遊んでいかれる。はじめは、場所見知りや人見知りで泣いてしまう子どもいたが、時間が経つにつれ泣きやみ、帰るころにはもっと遊びたいと名残惜しそうであった。回を重ねるごとに、「大学にいこう」と保育者が伝え、子どもたちは自ら靴を履きに行く姿が見られたということである。また、教室に着くと、すぐに好きなおもちゃで遊ぶ子どもたちの姿があった。保育園にはないおもちゃが多数あり、子どもがどんなおもちゃを選んで遊ぶかを見ることで、新たな発見があると保育者も楽しみにしておられた。この事業では、学生が実習以外で、キャンパス内に居ながらにして乳幼児と関わり、現場の保育者の関わりに触れることが可能となった。

【行動計画2-①について】

- ・「いないいないばあ教室」の取り組みでは、1クール目は、子育て支援チームとして、本学科の3ゼミが担当した。2クール目は、ボランティアチームを組み9人の学生が関わった。学生が行う各回の具体的な取り組みとして、教室の最後につながり遊びやつながりゲーム、手遊びや絵本の読み聞かせ等を参加親子に提供した。教室終了後、振り返りも兼ねて手作りの壁新聞を作成した。壁新聞は次回の教室で掲示した。この取り組みは、学生と子どもとの関わりを保護者に伝えるツールとなった。参加された保護者にとっては、わが子の様子がよくわかるものとなり、都合で参加できなかった保護者にとっても前回の様子を知ることができ、大変好評であった。学生自身にとっても、就職後の実践の場において、園での子どもの姿をドキュメンテーションとして保護者に伝えるために役立つ有効な取り組みであると考えた。
- ・施設、設備については、上記の達成状況の報告でもふれたように、京都市の「学まち連携大学」促進事業を活用して乳幼児関係の備品（玩具等）などを整備し、安全面への配慮を第一とした環境設定、また、1-①、②、③とも関連して、参加した子どもたちが園にはない新しい魅力を感じてもらえるような環境づくりを毎回の実施時に行った。参加された園の保育者からは、工夫のある環境設定の中で子どもたちの行動に新たな一面を観察することができ、今後の保育の参考になったとの感想をいただいた。これらの取り組みは、学生にとっても日常の中で子どもたちと接する機会となっており、また、環境設定の事例として授業でも触れるなど、子育て支援及び、教育・研究の場としての施設・設備の具体的な活用役に役立っている。
- ・短期大学部の幼児教育保育科学生が、実習期間中や卒業研究の作成などにより参加することができない時（1クール目②③回、2クール目①④⑤回）は、大谷大学教育学部教育学科幼児教育コースの学生が参加した。この取り組みは、来年度からも大谷大学教育学部教育学科幼児教育コースに引継ぎ実施していく。
- ・施設・設備については、参加者から、大谷大学の施設を利用することについては、交通が便利であり室内が明るく安全にも配慮された環境であるとの感想をいただいている。今後も、学内施設状況を考慮の上、子どもに寄り添う環境づくりの視点を大切に効果的に整備していけるよう、大谷大学教育学部教育学科幼児教育コースに引継いでいきたい。

【行動計画 2-②について】

- ・「大谷幼稚園特別課外活動」では、本学科の准教授（専門分野：理科）が科学あそび教室を担当した。本取り組みは、教員の専門性を大学附属大谷幼稚園の保育実践に還元する意味合いを込めて、幼稚園との連携のもとに実施している。
- ・実習園でも実施できるか働きかけてみるという行動計画については、打診を試みたものの実現はしなかった。しかしながら、達成状況報告の行動計画 2-①での報告でふれた、特別講座「あかちゃんのことばの発達と絵本」（講師：本学教授）において、本学 4 号館多目的室にて地域の子育て中の母親を対象に子育て講座を開講したが、実習園に通う園児を子どもに持つ母親も多数参加され好評をいただいた。このような取り組みを展開させていくことが、実習園との間での継続的な活動につながることもできるのではないかと考えられる。

4. 【根拠資料】 資料名を明記し、現物を添付すること

- 「はぐくみ広場」チラシ、学生アンケートまとめ
- 「あかちゃんにこちゃんサロン」チラシ・報告
- 「いないいないばあ」教室スケジュール、壁新聞コピー
- 「大谷幼稚園特別課外活動」資料

<相互評価担当者使用欄>

<所見>

【2019 年度の目標】に対して適切な行動計画が立てられており、かつ、【2019 年度の達成状況】から、立てられていた達成基準を果たすことができたことが確認できた。自己評価は A であるが、学生の教育だけでなく、社会貢献も十分に果たしている。加えて、教育学部の幼児教育コースへの継続という発展的な成果を見せていることから、評価を S とした。

<自己評定> B	<委員会評定> A
1. 【2019年度の目標等】	
[目標] 授業の充実	
授業（「保育・教職実践演習」）の充実	
[達成基準]	
受講生全員が該当科目（「保育・教職実践演習」）の単位を認定されること	
[行動計画]	
<p>幼稚園教諭・保育士として仕事をするための総仕上げともいべき科目「保育・教職実践演習」の学修は、少人数のグループ学習が非常に効果的であるが、2名の担当者だけでは十分ではない。そのため、直接担当する教員以外の学科の教員全員が、できるかぎり授業に参加し補助をする。なおこのことは、昨年度の学科会議で了承済みである。</p>	
2. 【2019年度の達成状況報告】	
<p>2019年12月17日の「保育・教職実践演習」の授業に、すべての「仏教保育演習」（ゼミ）の担当者が出席した。授業テーマは「子どもの権利擁護について」で、Aクラス、Bクラス合同で実施された。授業形式は、講義の後、ゼミ単位での討議が1時間にわたって実施された。ゼミ担当者はその討議に参加し、学生に発言を促したり、問題を整理し議論の活性化をはかった。</p> <p>なお、当該授業で作成する「履修カルテ」への所見は、ゼミ担当者がゼミ生について記入している。また、全員ではないが、オブザーバー的に授業を参観することもある。</p>	
3. 【点検・評価】	
<p>授業担当者によれば、これまでのグループ学習の経験に照らしてみると、今回の授業は、集中できていたようであり、発言も活発であったようであるとの感想であった。ただし、少人数のグループ活動があまりなく、ゼミ担当者が授業に関わることがほとんどできなかった。たしかに、上述の授業に関しては、学修効果は高かったが、その他の授業でも同様の効果をあげるためには、ゼミ担当者が全員とまではいかなくとも、時間割上ある程度参加できるかどうかを勘案し、ゼミ担当の支援が可能な授業内容を計画する必要があるだろう。そうすれば、学習の充実は十分期待できると思われるが、学科教員の協力や授業内容にもよるのでこのような方法を一般化するのには難しいところがある。</p> <p>受講生全員が該当科目（「保育・教職実践演習」）の単位を認定されること、という達成基準については、最終的に受講生全員が達成できた。</p>	
4. 【根拠資料】 資料名を明記し、現物を添付すること	
なし	

<相互評価担当者使用欄>**<所見>**

【2019年度の目標】に対して意欲的な行動計画が立てられており、かつ、【2019年度の達成状況】から、立てられていた達成基準を果たすことができたことが確認できた。実際の行動が計画通りでなかったことから、自己評定をBとしているが、達成基準に到達できている。また、学生に対する

指導状況も例年以上に厳格化したうえでの達成であるため、評定を A とした。